

令和6年度 大田区立大森東小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和7年3月7日

○開校は昭和57年4月 令和6年度は開校43年目になる。児童数153名(9月現在) 7学級(1～6年1学級、自閉症・情緒障害固定学級1学級)、サポートルーム拠点校。
○教職員数:教員19名(時間講師含)、特別支援専門員1名、特別支援学級介添員2名、スクールカウンセラー1名、事務(補助員含)2名、栄養士1名、学校特別支援員2名(補助員含)、教育支援員1名、副校長アシスタント1名、読書学習司書1名。
○令和6年度より、自閉症・情緒固定学級を1学級開設した。
○学校にある水田学校園で地域の指導者の協力を得て、米作りやケナフの栽培に長年取り組んでいる。
○令和5年度・6年度におおた国際教育推進校(おおたグローバルコミュニケーションOGC) 大田区教育研究推進校の指定受け、英語に特化したOGCや体験学習を通した国際教育を推進し、多様性を認め合える豊かなグローバル感覚を身に付けた児童の育成に取り組んでいる。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	評価	人数	学校関係者記入欄			
生予個性測別る困目力難標をな1育未成来し社会を創造的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	【児童アンケート】 「学習をするときに、すでにタブレット端末を活用している」と肯定的な回答をした児童の割合。	4: 90%以上	○国際教育を教科横断的に実施できるようにカリキュラムを立てて、年間を通して計画的に実施することができた。児童がより主体的に学び、課題解決力を育成できるようにカリキュラムを見直していく。 ○外部講師を活用したプログラミング教室や環境学習、地域の公園や施設などを活用した体験学習を積極的に実施した。活動後には振り返りシートなどを活用して児童が自己評価できるようにした。児童相互ののかわり合いを各教科の学習で取り入れることで他者と協働していく力を育成できるように今後も授業改善に努めていく。 ○各教員が授業中に児童がタブレット端末を使用する場面を設定したことで、児童が活用することが多くなった。今年度より授業で使うアプリケーションが変わったこともあり、ICTサポーターの活用や校内での研修会、教員間での活用方法に関する情報交換などを日々行いことができた。今後もICT活用を目的とするのではなく、児童の学力向上へのツールの一つとして活用できるように、教職員のICTスキルを高めていく。	A	9	・どのようなことを社会的課題ととらえるか、カリキュラムの中で各自の関心を発信する、また受け止める機会が多いとよいと思いました。 ・児童にタブレットが日常の者となっている。便利なツールであると感じる。 ・各教員が授業中に児童がタブレット端末を使用する場面を設定したことで、児童が活用することが多くなった。 ・継続していただければと思います。 ・さまざまな体験的な学習を通して学ぶ意欲が育てられていると考えられた。 ・校内での研修会、教員間での情報交換等により、この成果につながったのですね。お忙しい中、ありがとうございました。 ・きめ細やかなカリキュラムで、学年に応じて様々なアプローチで自ら学ぶ経験を積み重ねられていることが分かります。 ・わが子も大田区立小学校を卒業、在籍しています。こどもの学校よりも通わせていただいているかもしれない東小学校の先生方の雰囲気やこどもたちの楽しそうな表情、何よりICTをフルに活かしている授業風景を見ていると、安心して卒園児をお任せできるとしみじみと感じています。			
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上90%未満							
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 70%以上80%未満							
			②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		3		4 (90%)	B		0		
				3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。				3: 80%以上90%未満					
				2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。				2: 70%以上80%未満					
			③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		4		1: 70%未満	C		0		
				4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				2: 70%以上80%未満					
				3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。				2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。					
				2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。				1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
お世個別た2うが人材を際育都成市します	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	【児童アンケート】 「OGC・外国語活動・外国語の学習が楽しい」と肯定的な回答をした児童の割合。	4: 90%以上	○年間70時間のおおたグローバルコミュニケーション(OGC)を中心とした国際教育を実施している。授業では、OGCティーチャー(以下OGCT)と外国語教育指導員(以下ALT)が必ず入り、担任とも連携しながら今年度はおおた国際教育推進校として研究発表も行うなど、授業研究に努めた。OGCTやALTと児童が直接やり取りする機会を多く設けることや海外体験ルームを活用した授業を展開することで、英語や海外文化への興味関心を高めることができたとともに、意欲的に英語を使ってコミュニケーションを取る姿が見られた。 ○毎月1回「イングリッシュ・ウィーク」を設定し、その1週間は朝の会や帰りの会を英語で行っている。今後も英語での挨拶を積極的に働きかけするなど、普段の生活の中でも英語に触れられる機会を増やしていく。 ○本校は外国にルーツをもつ児童が多数に在籍し、国際色豊かな雰囲気の中で児童は生活している。その利点を生かし、国際教育を推進していくことで、異文化理解を図り、それを互いに尊重し合う気持ちが育成できている。また、12月の人権週間に合わせて人権に関する道德の授業を実施するとともに、標語やポスターの作成などを通して、児童の人権感覚、人権意識を高めるようにした。 ○4年生を中心にSDGsの学習に取り組んだ。身近な問題をつきかけにして、学習を進めていく過程で児童の視野を広げ、地球規模の課題について目を向けることができるようになった。学習したことを生活に生かせるように、今後も指導を継続していく。	A	9	・英語を普通に語る姿に、学校での取組を感じた。 ・国際教育を推進していくことで、異文化理解を図り、それを互いに尊重し合う気持ちが育成できている。 ・先日の研究授業での様子でも感じましたが、こどもたちが堂々としていて自信があるのだなと思いました。「大森東小のOGC教育は特別なんだ」とこどもたちが感じていて、自信がついたのかなど。とても楽しく取り組んでいるように見えます。 ・研究発表を行ったことも、こどもたちにとって大切な自信につながったのではないかなと思う。 ・国際的な社会において外国語はとても大事になってきますので、特例校としてがんばってください。 ・大東小の特色を充分に活かし、コミュニケーション手段として英語教育に取り組まれている点が素晴らしいです。 ・OGCとSDGsの取組を両輪でできる環境は、相互の理解を深め、より学びにつながると思います。自園も外国にルーツのある家庭が3割以上在籍しています。学校に行かせていただくたびに、ルーツがある子もそうでない子にも楽しみながら日本語以外の言語や日本以外の文化にふれられる環境を保育園に活かせないか見ています。			
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上90%未満							
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 70%以上80%未満							
			②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。		4		4 (90%)	B		0		
				3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。				3: 80%以上90%未満					
				2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。				2: 70%以上80%未満					
			③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		4		1: 70%未満	C		0		
				4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				2: 70%以上80%未満					
				3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。				2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。					
				2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。				1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。					
た一個め人別の目基と標礎り3とな個性力とを能力成をし発揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	【保護者アンケート】 学校は、児童にとって分かりやすい授業をしている」と肯定的な回答をした保護者の割合。	4: 90%以上	○道徳教育推進教師を中心に、道徳授業の確実な実施及び授業改善を図ってきた。今後も児童の自己肯定感や自己有用感の向上を図るために、各学年の活動は勿論、学校の教育活動全般で一人一人の活躍の場を保障していく。特に、縦割り班活動(朝の集会活動、縦割り清掃等)、委員会発表等の機会を積極的に活用し、頑張りに対し認め、ほめていく。 ○年間を通して、算数の補習を実施できた。児童の実態に応じて、タブレットとプリントを使い分けて学習した。基礎学力の定着に課題があるので、補習のみならず家庭での学習習慣の定着を図るよう家庭への協力の呼びかけや、指導方法の工夫改善を図っていく。 ○「学習カウンセリング」を1学期末に実施したが、十分に時間が確保できなかった。今後は計画的にカウンセリングができるよう体制を整え、一人一人に合った個別支援を行い、基礎学力の定着を図っていく。 ○授業改善プランを意識して、授業を進めることができた。今後も引き続き改善プランに沿って授業改善を行っていく。 ○休み時間に校庭に出て遊ぶ児童が少ないのが課題である。持久走や長縄など、全校一斉で取り組む体育的活動を今年度も実施し、児童の体力向上を図った。体育の授業で鉄棒やボール運動をした後は、その運動を休み時間にする児童が増えるので、体育の授業改善を今後も進めて運動の日常化を目指していく。 ○今年度は体育・健康教育授業地区公開講座で、外部講師や学校医、栄養士による授業を行った。保護者向け講演会も行い、多くの保護者、地域の方にご参画いただくことができた。今後も内容を検討し、健康教育を推進していく。 ○1年生と保育園の交流会を年間2回実施したり、中学校への体験授業に行ったりするなど、保幼小との連携や小中一貫教育を進めている。引き続き必要に応じて情報を共有するなど連携を密にしてい	A	6	・個別目標3・5、6・7については、少人数の学校で母語も様々であると思われるので、適切な自己評価であるのか、判断は難しいと感じました。 ・1年生と保育園の交流会を年間2回実施したり、中学校への体験授業に行ったりするなど、保幼小の連携や小中一貫教育を進めている。 ・保護者の評価が高いのは日頃の学校教育に満足しているのですね。補習、カウンセリング、お知らせプリントなども分かりやすく、どんな風に過ごしているのかが想像できているのかと思います。休み時間は貴重です。本を読む子、絵を描く子、ほっとする時間です。 ・道徳は人間形成の上で必要なことだと思う。授業だけでなく、我々や保護者の方もぜひ受講はしたほうがよいですね。 ・保護者の9割近くが肯定的な回答をされ、保護者の理解とサポートが得られることで児童の学習意欲が一層増すことと思います。 ・こどもは「楽しい」と心を揺さぶられると思います。公開授業を拝見すると、こどもたちが嬉しそうな楽しい表情をしているのが印象に残っています。その姿を見た保護者は成果評価につながったのだと思いますが、卒園児の保護者の姿はあまり見られないので、ぜひまずは見に来ていただきたいと思いました。			
			3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上90%未満							
			2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 70%以上80%未満							
			②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		4		1: 70%未満	B		3		
				4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				3: 80%以上90%未満					
				3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。				2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。					
			③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		4		1: 70%未満	C		0		
				4:「おおむねできた」と全教員が回答した。				2: 70%以上80%未満					
				3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。				2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。					
			④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。		4		1: 70%未満	D		0		
4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	2: 70%以上80%未満												
3: 80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。												

学 校 別 力 ・ 標 教 4 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことのできる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	【児童アンケート】 「先生は分かりやすく勉強を教えてくれる」と肯定的な回答をした児童の割合。	4:90%以上	4 (97%)	○公開した授業の評価を、真摯に受け止めて、授業改善に努めてきた。さらなる授業改善を図るために、今後もOJTの充実を計画的に行う。OJTの年間計画を年度当初に作成し、若手教員は自己の課題を明確にして授業を公開し、他の教員から指導・助言をもらう時間を設ける。また、主任教諭や主幹教諭、指導教諭は指導テーマを決め若手教員をはじめ他の教員に授業を公開する。公開授業後は必ず協議会を行い、全体に還元していく。 ○若手教員指導担当者と若手教員が毎週1時間以上の面談を通して、授業観察の評価や悩み事の相談などを行ってきた。今後も継続していく。	A	9	・研究発表時の児童の生き生きとした笑顔に、授業の楽しさが感じられました。 ・若手教員指導担当者と若手教員が毎週1時間以上の面談を通して授業観察の評価や悩みごとの相談などを行ってきた。 ・公開日の後に協議会をしていたり、授業改善の向上に努めてくださったおかげでこのような評価なのですね。教職員の方々の努力には頭が下がります。 ・良い取組が下がります。 ・良い取組だと思います。 ・先生方の日頃の研究が、確実にこどもの学習によい力になっていると感じる。 ・授業の様子を参観すると、こどもたちが生き生きとしている姿が印象深いです。 ・いろいろな角度から理解できるような工夫が授業にたくさんされていると思います。廊下や階段の掲示も授業を補う役目をされており、学校全体が学べる環境になっていると思います。
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特徴を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上90%未満		B	0		
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2:70%以上80%未満		C	0		
						1:70%未満		D	0		
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い き 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	【児童アンケート】 「自分にはよいところがある」と肯定的な回答をした割合。	4:90%以上	2 (75%)	○自閉症・情緒障害固定学級を4月から開設した。通常級との交流学習を計画的に進めることができた。 ○学級集団調査（WEBQU）の面談結果や学校生活調査を教員全体に周知して共通理解した。しかし、組織で対応する具体的な動きは十分には取れなかった。児童が健全な生活を送れるようにするために、児童の実態把握を確実にし、生活指導夕食会やいじめ不登校対策委員会などにて教職員全体で共有をして、組織的に指導にあたる。 ○各種行事や研究授業に限らず、普段の授業等、児童のあらゆる教育活動において、全教職員で意識して、児童の頑張りと良さについて認め、ほめ、励ます機会を多くもてた。 ○今後も児童の自己肯定感や自己有用感の向上を図るために、各学年の活動は勿論、学校の教育活動全般で一人一人の活躍の場を保障していく。特に、縦割り班活動（ふるはま遊び、朝の集会活動、縦割り清掃等）、委員会発表等の機会を積極的に活用し、頑張りに対し認め、ほめていく。	A	4	・先生方のサポートに感謝します。 ・自閉症・情緒障害固定学級を4月から開級した。普通学級との交流学習を計画的に進めることができた。 ・ほめ方も難しいですね。頑張ったことをほめるのはもちろんのことですが、「自分は頑張っていない」と感じている子もいます。「今日も起きた」「忘れ物が減った」等、小さなことでもほめていくのも良いのではと、自分では思います。 ・なかなか難しい問題で、地道に行くことだと思います。 ・こどもたちが自分に対しての評価が厳しいのだと思われる。具体的な観点がこどもに分かるよいのではないかと。 ・高学年児童には「よいところ」という言葉で回答するときに、謙虚さが出てしまうように思います。
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上90%未満		B	5		
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:70%以上80%未満		C	0		
						1:70%未満		D	0		
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 ぶ 空 間 と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	【保護者アンケート】 学校は児童の健康や安全に留意した教育環境をつくっている。	4:90%以上	3 (87%)	○毎月1回の避難訓練を確実に実施している。学級での事前指導を確実に行うことで、児童は真剣に訓練に取り組んでいる。消防署や区の防災課に依頼し、児童を対象とした起震車体験、煙ハウス体験、消火器訓練を実施した。また、警察と連携し、教職員を対象とした不審者対応訓練を夏休み中に実施した。教職員、児童ともに非常時に対する危機意識を高めることができた。引き続き、教職員、児童の意識を高められるように訓練を続けていく。 ○児童一人一台端末を貸与し、多くの授業で活用している。海外体験ルームのマルチスクリーンをOGGの学習以外の理科、社会、国文、総合などの教科・領域でも活用し、児童の学習意欲を高めたり、学習効果を上げたりすることができた。今後も教員間で効果的な活用方法を共有し合い、学習効果を高められるようにしていく。	A	5	・毎月1回の避難訓練を確実に実施している。 ・日頃の訓練が大事です。これからも続けていくことで実践に役立つことを祈ります。 ・OGG教室を英語だけでなく、幅広く活用した方がよいですね。 ・こどもの健康や安全については保護者も関心があるかと思われるので、保護者が関われるような内容はあるとさらによいかと思っています。 ・何事にも素直で柔軟な頭や耳があるときに、ネイティブの先生からたくさんの笑顔と英語を浴びられる素晴らしい環境だと思います。
		②避難訓練や安全指導などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上90%未満		B	4		
						2:70%以上80%未満		C	0		
						1:70%未満		D	0		
学 地 学 校 校 別 を コ ・ 目 つ ミ 家 標 く ・ 庭 フ リ ニ ・ マ テ 地 サ イ 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	【児童アンケート】 「地域の行事やサマースクールやオータムスクールを楽しみにしている」と肯定的な回答をした割合。	4:90%以上	2 (79%)	○学校ホームページの東っ子ダイアリー、東っ子ポスト、学年ページ開設等、学校の教育活動を保護者や地域に積極的に紹介することに努めた。 ○緊急時の連絡をとるための学校緊急連絡システムへの保護者の加入については、個別対応をしながら加入者数を増やし、ほぼ全保護者の加入が済んだ。今後も未加入や転入の保護者に個別対応を継続していく。 ○田地まつりなどの地域行事の開催がされるようになり、多くの児童が参加していた。今後も学校からも地域の行事を周知していき、積極的に参加するように働きかけていきたい。 ○地域教育連絡協議会を年間3回開催し、地域の方々からの意見をなるべく反映できるようにしてきた。また、毎回の学校公開や運動会などの学校行事後のアンケートや学校評価アンケートにある保護者の意見も真摯に受け止めてきた。来年度はコミュニティスクールの発足を目指し、さらに家庭地域と連携して学校の教育活動を進めていく。	A	4	・コミュニティ・スクールに期待します。 ・団地祭りなどの地域行事の開催がされるようになり、多くの児童が参加していた。 ・いつもスクサポの活動に御理解、御協力をいただきありがとうございます。もっとこどもたちや保護者の方に分かりやすいプリントなどを作成したり、発信しながら活動していきます。地域の方の活動を、もっと明確に区別していくとよいのかもしれません。 ・参加する子、しない子をはっきり分かれていく気がします。 ・学校と地域がうまく連携されていて、それがこどもたちにとって当たり前になっている結果の評価の表れではないかと思う。こどもたちは充分満足しているのではないかとと思う。 ・さまざまな家庭環境があり、地域や長期休みのイベントに参加が難しい児童もいるかと思っています。地域の方々の姿を見て育つ子は、地域を大切にできる子に育つと思います。とてもよい雰囲気だと思い、外から来た人も居心地がとても良いです。
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		3:80%以上90%未満		B	5		
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4		2:70%以上80%未満		C	0		
						1:70%未満		D	0		

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である B：自己評価はおおむね適切である C：自己評価は適切ではない D：評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。